

# NPO における組織体制・風土と繁忙度の関連

## ——兵庫県 NPO 調査のデータ分析 (3) ——

摂南大学 山本圭三

本研究は NPO 組織の繁忙度をもたらす要因とその影響について、兵庫県の NPO を対象とした組織調査のデータをもとに検討するものである。

NPO を対象とした実態調査は、質的、量的を問わずこれまで数多くなされてきた。その中では、NPO が抱える課題として「資金獲得の困難さ」「人材不足」などが重要だとよく指摘される（ひょうごボランティアプラザ 2008、ひょうご震災 20 年ボランティア活動調査検証・促進事業実行委員会 2015 など）。すなわち、程度の差はあるものの、基本的に NPO 組織は限られた資源のなかで運営をおこなっているのが現状だといえる。

このため、実際に NPO 団体において活動するスタッフや活動者にかなりの負担がかかっていることは想像に難くない。このような組織における繁忙度が高いことが、組織運営や活動の継続にとってマイナスになることは言うまでもない。しかしそれだけではなく、繁忙度が高いことはスタッフや活動者を新たに獲得することにも影響し得る。すなわち繁忙度は、組織の存続を考えていくうえでも見落とすことのできない重要な要因だといえる。

このような背景のもと、本報告では (1) NPO 団体における繁忙度は、何によってもたらされるのか、(2) NPO 団体における繁忙度は、団体の運営にどのような影響をもたらすのか、といった点を検討していく。分析をとおして、NPO における活動の継続に関する新たな論点を探ることが、本報告のねらいである。

上記の問いを検討するにあたり、今回は 2016 年度に実施された「兵庫県の NPO 法人に関する活動調査アンケート」（科学研究費補助金助成プロジェクト、代表：鈴木純 [神戸大学]・宮垣元 [慶應義塾大学]）のデータを用いた計量分析をおこなう。上記の問題を考える上で、今回は特に組織規模（人材、資金）、活動実態（内容、対象地域、他組織との協働）、組織風土（意思決定や情報共有）などの変数に注目する。

分析の結果、繁忙度は団体スタッフのモチベーションやスタッフ間の意見対立だけでなく、世代交代といった組織の維持存続にも関係していることが示された。また繁忙度には、正会員数などの組織規模、特定事業の受託や他組織との協働といった活動実態、情報共有などの組織風土がそれぞれ関係することも確認された。さらに、同一団体内における規模や活動内容の変化についての検討からは、体制の変化と繁忙度の間に複雑な関係のある可能性も示された。こうした結果から、筆者は NPO の活動や事業の展開を考えることに独特の難しさがあることを指摘する。

※分析の詳細、およびインプリケーションについては報告当日に説明する。

### [文献]

ひょうご震災 20 年ボランティア活動調査検証・促進事業実行委員会編、2015 『第 8 回県民ボランティア活動実態調査報告書（平成 26 年度）』。

ひょうごボランティアプラザ、2008 『ひょうご NPO データブック 2007』。